

BPSD スポット調査 実施要項（指導者施設向け） （2018年12月5日版）

1. BPSD スポット調査について

- 本調査は、「認知症ケアの標準化に関する研究」及び「認知症ケアレジストリ研究」の一環として実施します。なお、認知症ケアの標準化に関する研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構による「長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業」の助成により、国立長寿医療研究センターが実施する「適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究」の分担研究として認知症介護研究・研修センター（東京・仙台・大府）（以下、3センター）が実施する研究です。また、認知症ケアレジストリ研究は、3センターの運営費により、「認知症ケアの標準化に関する研究」の体制整備や成果普及の目的で実施する研究です。（別添1参照）
- BPSDスポット調査は、認知症介護指導者所属施設を対象とし、認知症の人に生じているすべてのBPSDの登録をする「フルレジストリ」とフルレジストリの項目を絞り、1つのBPSDに対するケアについて登録する「ミニレジストリ」があります。ミニレジストリは、認知症介護指導者所属施設に加えて、認知症介護指導者が所属しない一般の入居系介護保険施設も対象としています。

2. 研究目的

（認知症ケアの標準化に関する研究および認知症ケアレジストリ研究の目的）

認知症ケアの標準化に関する研究は、縦断調査により認知症ケアに関する大規模な情報収集を行い、そのデータを基にして以下の3点を達成することを目指す、5年計画の研究です。（平成28年度より開始済み）

- 目的1 認知症の人の状態及び利用サービスの経過の基礎データ集積により、BPSDへの介入手法を類型化し、関連要因、介入方法、手順を明確化する
（期待される成果）認知症ケアパス・介護保険事業計画等、施策に活用できる
- 目的2 BPSDの軽減に資するケアのエビデンスを構築する
（期待される成果）認知症ケアの質向上と専門性の向上に寄与する
- 目的3 当該研究により構築されたデータベースを外部の研究者へ提供
（期待される成果）認知症ケア研究の促進に寄与する

* 認知症ケアは認知症の人を中心とした個別ケアが重要であり、認知症ケアの標準化に関する研究でもそのことを前提としております。そのため、「認知症ケアの標準化」については、ケアのマニュアル化を想定していません。あくまでも現場の認知症ケアの実践のエビデンスを構築することを意図するとともに、個別ケアの基盤づくりのための研究として実施します。

(本調査の目的)

- 本調査は、上記研究目的 2 を達成するために実施する調査です。

3. 研究方法

(調査の概要)

- BPSD スポット調査は、施設・事業所における認知症の人の状態を現場の介護職員等によって、WEB 上に構築された認知症ケア登録システムに入力する方法で行う調査です。調査は、前評価と後評価に分かれており、前評価では認知症の人の状態と実施するケアを登録します。その後 2 週間から 1 か月程度、登録したケアを実施し、その後後評価として、ケア実施後の認知症の人の状態を登録します。

(用語の定義)

本調査においては、以下のように用語を定義します。

- 調査協力者：本調査に協力する専門職等
- 調査協力施設：本調査に協力する専門職等が所属する施設・事業所
- 調査対象者：本調査の対象となる認知症の人

(調査の期間)

- 本調査は、当該研究の最終年度末（2020年3月31日）まで実施します。

(調査事務局)

- 認知症介護研究・研修東京センターが担います。

(調査項目)

- * 具体的な調査項目は、別添 2「BPSD スポット調査 項目一覧」に示しました。より具体的な項目が必要な場合は調査事務局にご照会ください。
- * 手続き上、調査協力者は調査対象者の氏名をシステムに入力しますが、事務局からは閲覧できないようにシステム構築しています。（ただし、当該システムを構築する管理会社は、システム管理上、閲覧可能です。）氏名の登録は、仮名も可能としています。

(関連事業との整理)

- 本研究は、「適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究」の分担研究として実施する「認知症ケアの標準化に関する研究」ですが、認知症介護研究・研修センター（仙台・東京・大府）が実施する認知症ケアレジストリ研究と連動して実施します。具体的には、図表 1 のようにすみ分けて実施します。ただし、研究で取得するデータは共通であり、研究の計画に基づき、相互に利用します。

図表1 関連事業との整理

	認知症ケアの標準化に関する研究	認知症ケアレジストリ研究
財源	国立研究開発法人日本医療研究開発機構による「長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業」の助成 (AMEDによる助成)	センター運営費を財源とする
位置づけ	研究項目の検討・研究結果の解析等 研究的な作業	システム構築・システム運用等の体制整備・結果の普及、活用
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体説明会の実施 (審査済) ● 項目検討 ● 登録結果の解析 	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録説明会の実施 ● 縦断的登録システムの構築 ● 登録結果の集計

(調査協力施設・調査対象者)

- 図表2のとおりとします。

図表2 調査の対象

(スポット調査協力施設の要件)

- 認知症介護指導者の所属する施設・事業所(認知症介護指導者が法人代表者あるいは統括管理をしている施設・事業所を含みます)
- 本研究の趣旨を理解し、当該施設の管理者により、調査協力に同意の得られる施設・事業所
- **入居型施設**(*スタッフが24時間常駐し、認知症の人のケア等を行っている施設・事業所)
特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホーム、介護療養型医療施設、特定施設(介護付有料老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅)
- 右記の利用者環境(パソコン)が確保できる施設・事業所

2018.4~対象を拡大しました

(スポット調査対象者の要件)

- 医師により**認知症**と診断されている者
- 本人あるいは代諾者により調査協力に同意の得られる者
- 調査協力施設に居住している者(ショートステイ利用者は除く)
- 年齢不問
- 認知症の**日常生活自立度Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、Ⅳ**の者
- 以下の要件に該当しない者
 - 意識障害(せん妄、脳卒中による意識レベル低下等)、精神疾患(統合失調症、うつ状態等)のある者
 - すでにターミナル期にある者
 - スポット調査中、薬物を調整する予定のある人(調整して、経過が安定した後は登録可)

利用者環境(パソコン)

OS:Windows XP以上
(Windows7以降を推奨)

ブラウザ: Internet Explorer 8以上を推奨、
Firefox、Google Chromeについては最新バージョンに対応

7

4. 調査協力に対する謝礼

現在、調査開始当初であり、登録にかかる負担が大きいことから、認知症の人のデータを1名分・1回(前評価+後評価)登録いただくごとに、施設・事業所に対し、1,500円分のクオカードをお渡しします(平成30年度)。平成30年度以降は未定ですが協力いただきたい

た方には別途お知らせします。

5. 調査にかかる倫理的配慮

「研究協力者に対する研究目的等の説明書 BPSD スポット調査（施設・事業所・スタッフ向け）」をご覧ください。

6. これまでの成果等

DCnet 上で、これまでの研究成果をアップしております。「学習支援情報」の「センター研究報告書」をクリックして参照ください。



【問い合わせ先】

〒168-0071 杉並区高井戸西 1-12-1 認知症介護研究・研修東京センター内
BPSD スポット調査事務局 中村・翠川・花田・藤生
TEL:03-3334-1150 mail:registration@dcnet.gr.jp

「適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究」

研究の構造と体制

- 本研究は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構の助成により国立長寿医療研究センターが実施する研究です。
- 委託期間は H28 年 4 月 1 日～H33 年 3 月 31 日であり、研究代表者は国立長寿医療研究センター理事長鳥羽研二先生です。
- 本研究は、「年齢、病期を考慮し、時間軸を念頭においた動的登録、連携 システム（オレンジプラットフォーム）を作成することを目的としております。
- 本研究では、「健常者、前臨床期」「軽度認知障害（MCI）期」「認知症期」といった疾患の進行に従ってステージに応じたレジストリシステムを構築し、それぞれのステージにおける先制治療薬、病態修飾薬、症状緩和薬などの薬物治療研究に対応する他、それぞれのステージにおける認知症ケアを検討するためのデータ登録を行います。
- 研究体制は全体として下表のような班で構成されており、各班ごとに数人の研究者が分担研究を実施しています。「認知症ケアの標準化に関する研究」は「認知症ケアに関する登録班」における研究の一つとして実施するものです（下表参照）。全体の研究費は約 1 億 5 千万円であり、「認知症ケアの標準化に関する研究」はそのうち 460 万円の研究費を用いて実施します。
- 「認知症ケアに関する登録班」は、「認知症ケアの標準化に関する研究」の他、「認知症カフェに関する研究」「認知症高齢者の介護者支援に資する要素の登録制度確立のための研究」「認知症高齢者の在宅継続に資する要素の登録制度確立のための研究」などで構成されています。

表 研究の班編成

企画班	研究全体の進捗管理とともに、倫理面を含めた制度の全体像についての研究を行う。
登録情報班	各期別の班との連携の下、病状の経過に応じた連続性を担保しつつ、各期に応じた登録項目・登録方法・質の担保方法を検討する。
連携・体制班	参加医療機関との連携のあり方、データの収集と検証のあり方、コホート研究や治験への登録データの提供方法等の実務面について検討する。
前臨床期班	地域コホートを通じたリクルート（長寿中心）及びインターネットによるリクルート（精神神経センター）について、具体的なあり方を検討する。
MC I 班	MC I 期の登録について、具体的なあり方を検討する。
認知症班	認知症期の患者の登録について、あり方について検討する。
認知症ケアに関する登録班	認知症ケアに関する登録について研究する。

「BPSD スポット調査 項目一覧」

	前				後			
	フル		ミニ		フル		ミニ	
	必須	選択	必須	選択	必須	選択	必須	選択
登録担当者	12	-	12	-				
施設ID	18	-	18	-				
基本情報	11	-	11	-				
ADL	10	-	10	-				
IADL	8	-	-	8				
栄養・身体	10	-	8	-	4	-	4	-
診断と治療	19	-	12	-	10	-	10	-
HDS-R	9	-	-	9				
DDQ 4 3	44	-	28	-				
自覚	24	-	1	-				
うつ	5	-	5	-				
せん妄	11	-	11	-				
発言・行動	-	4	-	0				
NPI-Q	10	-	10	-	10	-	10	-
意欲	5	-	5	-	5	-	5	-
QOL-D	8	-	8	-	8	-	8	-
QOLAD	-	13	-	-	-	13	-	-
生活	5	-	5	-	5	-	5	-
人間関係	7	-	7	-	7	-	7	-
療法等	-	33	-	0	-	33	-	0
ポジティブケア	-	5	-	0	-	5	-	0
小計	216	55	151	17	49	51	49	0
合計 (A)	271		168		100		49	
食事能力	-	6	-	6	-	6	-	6
食事拒否	-	98	-	98	-	102	-	102
食べ始められない	-	88	-	88	-	92	-	92
途中で止まる	-	82	-	82	-	86	-	86
必要以上に食べる	-	48	-	48	-	52	-	52
食べたのに食事を欲しいと訴える	-	68	-	68	-	72	-	72
他の人の食事を食べる	-	42	-	42	-	46	-	46
食事介助を拒否する	-	82	-	82	-	86	-	86
食べられないものを食べようとする	-	50	-	50	-	54	-	54
その他（食事に関する課題）	-	5	-	5	-	5	-	5
暴言・暴力	-	83	-	83	-	87	-	87
介護への抵抗	-	80	-	80	-	84	-	84
大声等	-	74	-	74	-	78	-	78
低活動	-	69	-	69	-	73	-	73
ものとり妄想	-	77	-	77	-	81	-	81
収集	-	74	-	74	-	78	-	78
焦燥・繰り返し	-	73	-	73	-	77	-	77
小計	0	1099	0	1099	0	1159	0	1159
合計 (B)	1099		1099		1159		1159	
(A) + (B)	1370		1267		1259		1208	